

コロナ禍から見てきた家庭科を学ぶ意義

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、先の見通しがもてない状況の中、日々の生活も行動制限がなされ、不便なことが多い毎日です。

しかし、世界中で「ステイホーム」が呼び掛けられた際には、お料理やお菓子を作ったり、普段できない片付けや掃除をしたり、家族とのコミュニケーションを充実させたりする姿が話題となりました。

コロナ禍の生活をどのように楽しむかについて、多くの人々が考え工夫していたからだと思います。

そう考えると、今回のコロナ禍は、よりよい生活とはどういうことなのか、生活をよりよくするためにはどんな工夫が必要なのかを考える良い機会となったと言えるのではないのでしょうか。



小学校家庭科の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成」です。



生活をよりよく工夫するためには、まず自分自身の生活を知ることが大切です。コロナ禍では、今まで何気なく過ごしてきた生活は当たり前ではないことに気付かされました。

「健康な食生活にするには？」

「快適な住生活にするには？」

「家族や地域の人たちと協力し、明るく楽しく、健康で安全な生活を送るには？」・・・

コロナ禍の今、解決すべき課題の多くが、家庭科で学ぶ内容であることに気付かされます。このように考えたとき、家庭科はすべての人が主体的に生きていくために必要な力を身につけていくための教科であり、家庭科を学ぶ意義は大きいと感じます。

これからも予測困難な状況は続くと思われられます。その中で、自分の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育てる家庭科の役割は、ますます大きくなると考えられます。

だからこそ私たちは、家庭科を通して、家庭科を学ぶ素晴らしさやその必要性を子供たちに伝え続けていきましょう。そして、子供たちに将来の生活に主体的にかかわっていくことができる能力や態度を育成していきましょう。

<7・8部会の実践紹介>

都田小学校 5年「クッキング はじめの一步」

【実践内容】

初めての調理実習で「ゆでる」という技能を活用し、「ゆでいも」「ほうれん草のおひたし」「オリジナルゆで野菜サラダ」を調理した。

児童が調理実習をする前に、担任と栄養教諭による模範調理を行った。栄養教諭は教科書どおりに調理し、担任は気を付けてほしい所をわざと間違えて調理した。

そこから、おいしく作るためのコツを見つけて、メモを取らせた。それらのコツを生かした調理実習計画を児童自らが立て、調理を行った。



<模範調理を見る子供>

【成果】

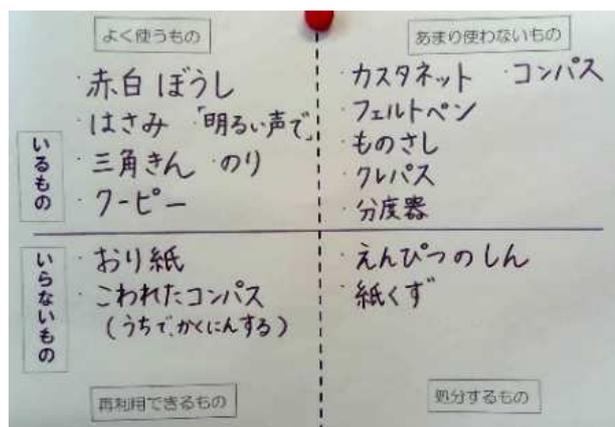
実際に調理の過程を比較するため、子供たちの興味関心はとても高かった。調理計画を立てるときにも、気を付けたいポイントをしっかり理解し、調理計画を立てることができた。また、実際に調理する際にもコツを生かそうと努力したり、調理後にはもっとここを改善したいという振り返りをしたりする児童がとても多かった。教師がコツと認識していなかった点に気付く児童も多く、調理のよさを感じることができた。家庭での実践でも、学習したことを生かし、調理実習では使用しなかった食材でチャレンジしようとする児童も多く、高い意欲を感じることができた。実践発表の際にも互いの調理の工夫や改善点を話し合うことができ、充実した学習をすることができた。

井伊谷小学校 発達支援学級「整理・整とんで快適に」

【実践内容】

題材の導入として、整理整頓されていない部屋の写真を見て問題点を考えさせた。「必要な物を探しづらい」「ごみが散らかっていて汚い」「タブレットや鉛筆が落ちていて危ない」などの問題点が挙がり、自分たちの身の回りの物を整理しようと投げ掛けた。子供たちにとって身近な物である道具箱の中身を点検し、整理整頓することを課題とした。

手順として、一度中身を全て出し、4つの区分で「必要な物・よく使うもの」「必要な物・あまり使わないもの」「不要な物・再利用できるもの」「不要な物・処分する物」に仕分けさせた。最後に、よく使う物が取り出しやすくなるように道具箱に収納させた。不要な物は、自宅に持ち帰らせたり処分させたりした。



< 7・8部会の実践紹介 > 続き

【成果】

実施時期が7月であり、1学期末の点検の時期として適していたと考える。道具箱の中身を4つの区分に分ける際、ワークシートを活用して道具を分けながら整理することができ、自分で考えながら仕分けする姿が見られた。ワークシートに箇条書きにしておさめることで、よく使う物やあまり使わない物に多少の個人差があること、壊れた物や不要な物が入ってしまっていたことなどに気付くことができた。整理整頓の前後の画像を見比べることで、定期的に中身を確認することの必要性を感じることができた。

< 編集後記 >

自ら課題を見つけ出す導入の工夫で意欲が湧き、子供個々が学習の主体になったことを感じました。日常生活での気付きや工夫の連続が生きる力につながると思いますので、これらを共有できる本実践が広がるといいと感じました。(二俣小 鈴木みよ子)



< お知らせ >



過去の『まど』は「浜松市教育研究会」のホームページ、「小家庭科研修部」でご覧いただけます。

浜松市教育研究会

研修会日程 総会 教育講演会

れています。

研究部	研究部	
01校長研究部	11数学科研究部	11/22学校コンサルしました。
02園長研究部	12理科研究部	11/24学校コンサルしました。
03教職研究部	13生活科研究部	12/7ストーリーテリ
04教務主任研究部	14音楽科研究部	
05研修主任研究部	15図工科研究部	
06国語科研究部	16家庭科研究部	
07書写研究部	17技術科研究部	
08小社会科研究部	18家庭科研究部	
09中社会科研究部	19家庭科研究部	

小家庭科研究部

令和3年度 研究テーマ
よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

研修テーマ・計画

令和3年度 家庭科だけの「まど」

451号 452号 453号 454号
455号

本年度も、「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」をテーマに研修を進めてきました。コロナ禍のため研修会は第1回、第2回のみでしたが、小清水先生や消費者教育についての杉本先生の講話、そしてICT活用研修など、様々な視点からの有意義な研修ができました。

家庭科の学習について悩みを解決し、新たな試みに挑戦していく、先を見通した楽しい、充実した「家庭科」の授業につながるような研修に今後もしていきたいと思えます。

1年間家庭科部の活動に御協力頂きありがとうございました。

(家庭科部役員一同)